

高島グラバー別邸調査・研究塾





塾長 浅尾 賢次

■ 塾長コメント ■

今年度は塾開講初年度でも有り、目的は明確に成っていたものの、目的へのアプローチ方法がよく分からず無駄な動きとそれに伴う時間的ロスが多々あり結果として当初目指した目的を十分達成したとは言えません。

無駄な動きの内訳の中で人脈が有ります。塾生以外の知識、資料等を集めたり見つけたりは人脈の活用が重要です。その最たる例は高島在住の山崎徳氏です。山崎氏が持っていた写真、記憶(スケッチ)等は大変貴重なものです。

しかしながら、大変残念な事に過日鬼籍にご冥福をお祈りいたすと共に氏の持っていた別邸再現の熱い、熱い情熱と執念を私たち塾が受け継ぎ今後も活動を行い、いつか氏の夢を実現したいと思いを新たにしています。

現実としてはまだまだ再現する為の資料、特に写真等が不十分でとてもそれ所では有りません。仮に資料が揃ってもそれ以外に様々な関門が有り、とても短期間には難しいのが現実です。ただ、これらの活動を持続する事で微力でも高島の活性化に協力出来ればと思います。どうぞ少しでも別邸再現に有益な情報、写真等お持ちの方はご協力ください。よろしく願いいたします。

■ 塾の目的 ■

高島の歴史的遺産の一つであるグラバー別邸(跡)の調査研究を行う。特にグラバー氏の業績で、幕末から明治初期にかけて石炭エネルギーの力が日本の近代化に及ぼした影響を考察、高島炭鉱の存在がグラバー別邸の存在に結び付いたであろう事実を北溪井坑と結び付け高島の価値を多くの人々に知っていただきたい。その結果として、高島来島者の増加と町の活性化に寄与することを目的とする。

■ 塾の研究・活動内容 ■

活動状況については原則月 2 回。第 2、第 4 日曜日に市民会館(中央公民館)、出島交流会館等に集まり、各々の課題や新たな事柄等の報告と人脈の整理、新たな活動目標等を話し合い、次の 1~2 週間に実施。

その中で、いままでに課外活動として高島グラバー別邸跡、北溪井坑跡、高島石炭資料館などを山崎徳氏の案内にて見学。また、長崎造船所史料館および、佐賀城本丸歴史館、佐賀県立博物館、大隈記念館などを見学した。

活動の大きな目標の一つとして、一般的に知られていたものではないグラバー別邸が映っている写真の新たな発見があり、参考文献、写真集等を中心に調査を行った。そのほか、個人的に軍艦島、高島に関心があり、研究・資料収集などを行っている方々を訪ね有意義なお話、資料などを頂いた。

昨年より塾を初めたが、初の体験でもあり、活動や調査研究など十分な活動ができなかったことを反省しています。そこで 2 年目にはこれまでの経験を活かして【幻】のグラバー別邸から目で確認が可能な別邸の実現に向けて活動する所存です。

行政が持っている別邸関連の資料をさらな

る開示をお願いすると共に、塾のものも紹介して一歩でも別邸の姿に近づきたいと考えています。窓口があれば紹介をしていただき、定期的に連絡会を持ち、連携を図りたいと考えています。

■ 塾活動の成果 ■

- 1) 高島炭鉱より出炭の石炭
- 2) ほぼ未発表と思われる別邸の側面からの写真 1 枚
- 3) 山崎徳氏作成の別邸のスケッチ
- 4) 建築家中村享一氏研究、調査結果作成の年表(幕末から大正期までの高島のあゆみ)
- 5) 九州大学所蔵の高島が確認できる青図

他、写真画像を 5 種 6 枚収集しましたが、いずれも遠景であるため、別邸を特定するのは大変難しい状態です。今後も可能性があると思われるところを積極的に調査したいと思っています。

1 年目では個人の方々が所有していた別邸の関連資料や知識をある程度塾内で集約できました。そこで、2 年目にはこれからの作業をさらに推し進め、最終成果物制作を目指します。

可視化ができれば簡単に紹介できるので、それを視聴した人々からのご批判も受けることとなりますが、その批判、ご意見が結果としてより真実の別邸に近づくと考えています。



山崎徳氏のグラバー別邸スケッチ

高島グラバー別邸調査・研究塾 活動記録

日 時	場 所	内 容
平成 27 年		
5 月 13 日 (水)	長崎県勤労福祉会館	長崎伝習所「塾」開所式、第 1 回 塾会議
5 月 24 日 (日)	高島グラバー別邸他	別邸の現地見学及び関連施設見学
6 月 14 日 (日)	中央公民館	定例会
6 月 19 日 (金)	中央公民館	定例会
6 月 28 日 (日)	中央公民館	定例会
7 月 12 日 (日)	中央公民館	定例会
7 月 26 日 (日)	中央公民館	定例会
8 月 23 日 (日)	出島交流会館	定例会
9 月 13 日 (日)	三菱重工長崎造船所史料館	史料館を見学、グラバー邸関連資料の有無の確認
9 月 22 日 (火)	出島交流会館	見学の報告及び考察
10 月 3 日 (土)	佐賀市	佐賀城本丸歴史館等を見学、グラバー研究に有益な資料の調査
10 月 11 日 (日)	出島交流会館	定例会
10 月 25 日 (日)	出島交流会館	定例会
11 月 7 日 (土)	出島交流会館	建築家中村享一氏の別邸等の個人的研究に付いての講演をして頂き今後の研究の助けとした。
11 月 22 日 (日)	出島交流会館	定例会
12 月 13 日 (日)	出島交流会館	定例会
平成 28 年		
1 月 10 日 (日)	出島交流会館	定例会
2 月 14 日 (日)	出島交流会館	伝習所まつりの展示物などの打合せ。
2 月 28 日 (日)	出島交流会館	展示物など進捗状況に付いての確認、打合せ。
3 月 3 日 (木)	出島交流会館	伝習所まつりの最終確認。
3 月 21 日 (月・休)	ベルナード観光通り	長崎伝習所まつり 調査内容パネルの展示、クイズなどを実施

■佐賀市調査

日時：平成 27 年 10 月 3 日(土)

場所：佐賀城本丸歴史館

(佐賀市城内 2-18-1)

<http://saga-museum.jp/sagajou/>

佐賀市大隈記念館

(佐賀市水ヶ江 2-11-11)

<http://www.okuma-museum.jp/>

1. 佐賀調査の背景

～佐賀藩と高島の関わり～

「高島」は、佐賀藩が上級家臣であった深堀家に与えた知行地であった。その「高島」において、元禄 8 年(1695)平戸の領民五平太(ごへいた)が偶然石炭を発見し、宝永 7 年(1710)頃事業化したのが高島炭鉱の始まりである。佐賀藩が本格的に高島炭坑開発に着手したのは、慶応 4 年(1868)のグラバー商会と佐賀藩が交わした高島炭坑開発合弁事業の契約後となる。

イギリスの貿易商人トーマス・ブレーク・グラバーは、安政 6 年(1859)21 歳の若さで来日し、艦船や武器の取引で長崎随一の外国商人に成り上がった。グラバーは、佐賀藩とも蒸気船や銃の購入で深いつながりがあった。良質の石炭を埋蔵する高島炭坑に早くから目を付けていたグラバーは、佐賀藩 10 代藩主鍋島直正へ高島開発を進言していた。鍋島直正は炭坑を独自に開発、経営したいという思いが強く、高島炭鉱に松林源蔵を藩主代理として派遣し、秘密裏に地質調査や炭鉱用機械を購入するなど開発の可能性を模索していた。

しかし、外国人の手を借りなければ、少量の石炭でも買い手がつかないという、販路の確保の面で経営上の課題を抱えていた。大量

の高島石炭を売り尽くすめどがたたず、結局一時的に販売をグラバー商会に依頼していた。独自経営の方針を捨て、グラバー商会との合弁を決断した。

こういった歴史的背景があることから、佐賀藩についての理解を深めるため、また資料を探すため、今回佐賀県を訪問することとなった。

2. 佐賀城本丸歴史館の視察

高島との関わりが深かった佐賀藩主が、政治を行い、生活を行った場所は城の中枢部の本丸御殿であった。

現在、佐賀城本丸御殿の一部を忠実に復元した「佐賀城本丸歴史館」が佐賀城跡に建てられている。



佐賀城本丸歴史館は、3つの展示テーマから構成される。

まず、『よみがえる佐賀城』と題し、佐賀城の変遷や復元過程を紹介している。

10 代藩主鍋島直正が再建した佐賀城本丸御殿。当時の「佐賀城本丸差図」や古写真が展示されており、当時のままに復元されたことが分かる。

続いて『輝きの時代』と題し、長崎警備を行っていた佐賀藩の様子や、国内初となった反射炉、精煉方の研究活動と三重津における造船事業などを紹介している。

最後に『開拓者の道』と題し、佐賀藩で活躍した人物たちを映像で紹介している。

3. 大隈記念館の視察

～大隈重信と高島炭坑～

安政2年(1855)明治政府から払い下げを受けた、高島炭坑の経営を後藤象二郎が行っていたが、破産寸前になり、岩崎弥太郎(三菱)が高島炭坑を買取った。この時、岩崎弥太郎は大隈重信や大久保利通から資金援助を受けていたとされている。

～大隈記念館～

大隈重信の生涯を貴重な資料とともに展示している。明治22年(1889)の暴漢による爆破で右足を失った後、その後の活躍を支えた義足の展示もある。

また、記念館の隣には、大隈重信の生家もある。



■長崎造船所史料館調査

日時：平成27年9月13日(日)

場所：長崎造船所史料館

(長崎市飽の浦町1-1)

<http://www.mhi.co.jp/company/facilities/history/index.html>

私共は、グラバーの建てたと思われる高島のグラバー別邸の写真が見たいと一年間奮闘していました。

島にある松林のせいで、建物があるのは分かりますが、その全容が分かりませんが、三菱重工によって行われたと言うことは、はっきりしています。

そこで、三菱関係の資料館には、是非行く必要がありました。係員の説明で、高島の石炭が造船に大いに活躍したのは分かりますが、肝心のこの建物の写真は、とうとう見つかりませんでした。

高島の船員クラブの洋式建造物の油絵は、ありましたが。そして、このようなものだったのだろうかと思いましたが、どうも違っていました。

高島の資料館にあった絵皿には、小さな島の上に家があり、これがグラバーの家だったのかも、思われました。これに近いものでもあればと、期待しましたが、残念でした。故山崎さんが、小さい頃ご覧になったと言う洋館を見てみたいと思います。

塾生感想

昭和62年度の「長崎食文化塾」以来、実に28年ぶりに長崎伝習所の門を叩きました。

前は業務多忙を理由に途中で断念しましたが、今回は1年を通して「高島グラバー別邸調査・研究塾」の活動に参加できたことで若干の達成感を味わっております。

今回の入塾理由は、一つは職場が高島グラバー別邸跡近くにありグラバー別邸そのものに興味があったこと、もう一つは昭和61年の炭鉱閉山により急速に過疎化が進行している高島の活性化に少しでも繋がればとの思いからです。

グラバー別邸塾では、現地調査をはじめ古い写真や図面等の収集・整理を行いながら、グラバー別邸がどのような建物であったのかを塾生みんなで月2回の会議を通して探求に努めました。

高島グラバー別邸は洋風建築をイメージしておりましたが、収集資料によるとグラバー別邸の主屋、付属屋は共に日本家屋風であった可能性が高いことが推測されます。しかし、和風建築とはいうものの地元の方が描き残されたスケッチ画によると主屋の伊王島に面する縁側には西洋風な装飾もあったようです。

今回の活動で最も興味深かったことの一つは、当時のグラバー別邸で執事、メイドとして働いておられた日本人のご夫婦のご子孫から別邸でのグラバーさんらの食事風景の一端をお伺いする機会に恵まれたことです。その時のお話は次の機会にでもご紹介したいと思います。

今後とも、長崎市、長崎伝習所の皆様には、高島グラバー別邸の調査・研究の推進と高島の活性化に向けて引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

多良 敏男

平成27年7月に「明治日本の産業革命と近代化遺産」に長崎エリアで8カ所が認定を受けました。しかしもっぱら「軍艦島(正式名称 端島)」が注目を浴びる傍ら、高島町の「北溪井坑跡」や「グラバー別邸跡」は認知度が低く、アピールできていない現実があります。そもそもトーマスBグラバー氏が高島に別邸を造り、英国から器材と技師を招聘して採炭した事の結果、軍艦島や三池炭鉱での採炭に成功した背景を考えれば、もっと注目を浴びるべき取組ではないのか。と思います。今回の「高島グラバー別邸調査・研修塾」の取組は現状に一石を投じる意義ある活動だったと思います。時間とともに当時の事情通は鬼籍に入っていきます。なので、単年度の取組で終わるのではなく、資金的手当てを含めて継続して取組み、活動すべきと思います。

小村 秀蔵

高島グラバー別邸調査・研究塾

塾長	浅尾 賢次				
1	木下 美佐子	21		41	
2	高倉 修	22		42	
3	西本 浜路	23		43	
4	小峰 莉穂	24		44	
5	木場 光則	25		45	
6	桜井 蓉子	26		46	
7	谷口 マサコ	27		47	
8	小川 美穂	28		48	
9	木下 静幸	29		49	
10	小村 秀蔵	30		50	
11	多良 敏男	31		51	
12	山崎 徳	32		52	
13	神原 英太郎	33		53	
14		34		54	
15		35		55	
16		36		56	
17		37		57	
18		38		58	
19		39		59	
20		40		事務局員	文化財課 田中 学